

はな号の



題字 瑞龍寺 起龍軒老大師

第42号

平成29年7月10日

発行:臨済宗妙心寺派

北海道教区

牛 見

講 三 第



平成二十九年度花園会推進テーマ

おかげさま

―三宝の恩―

仏法ありがたし

十牛図 第三講 「見牛」

札幌市 瑞龍寺 起龍軒老大師

「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえてさむしかりけり」

今年のはな号は例年になく積雪で、寺の境内には四月まで雪が融けませんでした。それでも、春がやって来て梅、桜、モクレン、レンギョと色とり豊かに咲いては散ってゆきます。今、初夏となり木々の芽が花から葉へと緑濃くなってきています。春夏秋冬自然そのもののサイクルは変化ありません。

わたしたちの日常生活も又、本来毎日、「今日一日生きた。明日も一日生きる。」この繰り返していきいます。しかし、人は一時でもこころに感情や思いあらわれていつも我多彼比の世間の中でふりまわされて生き疲れています。

秋尊の説話に、ある国の王さまとの問答があります。森の樹々が開けた家来の広大な庭園の夜中、大勢のお弟子たちと秋尊を中心にして、静かに坐って、身動きせず、一様に瞑想を凝らしているのが月明りに照らし出されました。王さまはこのようすを見て、心から感心して申し上げました。

「わたしは一つの国の王として、規則を作り国民を支配し、軍隊を治めています。しかし、ただのひと時でも、このように静かにおさめることはできません。お釈迦さまはどうしてこのようにおおさめになることができるのでしょうか。」お釈迦さまには、静かにお答えになりました。

「あなたは、人の形をはずめることをしているのです。心をしずめようとしてはおられないのです。」いつしか、王さまの心の中は、満月の光のように、静かな、明るい光にみちはじめたのでした。

修行中は毎日読経、作務、坐禅、食事の只ひたすらの繰り返しです。そのうち不自由な動作がとれ、整ってゆき、大きな生きる力がつけられてきました。

現代人の忘れ物
 兵庫県明石市常楽寺住職 小川太喜

昨年の八月十一日に前妙心寺派管長、河野太通老大師の姫路のお寺でダニ供養の法要がありました。あのダニです。ダニを駆除するマットをご存知でしょうか。「ダニ捕りマットこれが元祖だ」と通販カタログにあります。

このマットは姫路の隣のたつの市に会社があり、今まで経営できているのもダニのおかげということでは供養することになりました。

『三十三億匹ダニ供養会』。誰が三十三億匹も数えたのでしょうか。商品モニターの平均捕獲数に販売数を乗じた数字が三十三億匹ということなんです。虫たちの命に感謝し、健康や快適な生活環境について考える機会にしたいとの供養会です。

シリーズ こころの 時間

この同じ日に私は棚経（お盆に各家を廻り、ご先祖のご回向をすること）に参っております。

ある信者さんのお宅をお参りしていたところ九十代のおじい様が先月に亡くなっておられました。

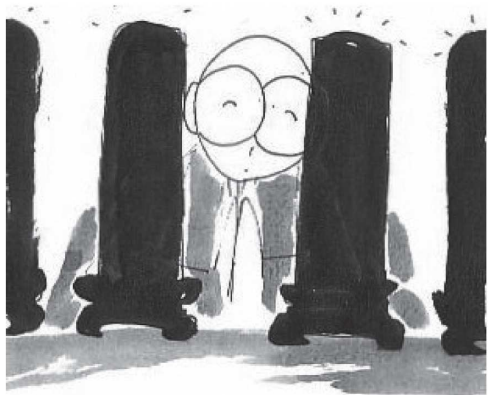
お寺には連絡が無かったので、お家の方にお尋ねすると「葬式はするな。」と生前に言っていたし、お金もかかるし、そんな訳で葬式をしませんでした。驚くやらおかしいやら、私の布教のなさでしょうか。

最近の新聞広告に「小さな火葬式」（火葬のみの直葬プラン）葬式を行わず、火葬のみ行う。費用も遺族の負担も最小限に抑えられる、一番人気がプラン。他にも費用に応じてご相談します。

一体、亡き人を何だと考えているのでしょうか？ お葬式は安くていいと謳い文句におどらされ、そのようなお葬式をするのです。

今年の春の定期巡教で三部を回りました。三部の皆様には大変お世話になりました。

ある和尚様が、こんな話をされました。「百年以上前に道東を開拓した人達は牛や馬のごとく働き、そして、



一卷のお経をあげてもらったことなく死んでいった。何とかお坊さんにお経をあげてもらいたい。そんな人々の願いでお寺ができたのですよ。」

お葬式もしないなら、当然、法事もしない。ダニには供養のお経がaggari、九十年以上生きたおじい様にはお経の一卷もあがらなくていいのでしょうか。費用を安くできたから、お坊さんにお布施をしなくてよかったと思っしているのでしょうか。すべて、金銭的に、何か考えていないのです。なぜそこに、一番大切な亡き人に対する感謝の気持ちがないのでしょうか。百年前の北海道の人々の心を現代人は学ぶべきです。

「ごあいさつ」
 北海道教区宗務所長 室蘭市 法眼寺住職 船場一讓

教区寺院諸大徳、ご寺院ならびに花園会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥にてご精進のことをご推察申し上げます。また日頃より花園会活動にご理解ご協力ご参加を頂き心より厚くお礼申し上げます。

昨年は、三部大乘寺様にて定期御親化授戒会、阿寒鶴雅にて花園大会を成功裡に執り行わせていただきました。特に、授戒会は二十年あまりで四度の執行と少数寺院の教区としては誠に偉大な業績であると思えます。

初回の実相寺様においての授戒会を開催するために、部内寺院間の距離が百キロ以上離れている所を何度も何度も会合を重ね役割分担、運行、準備、進行表等を作り上げ五百余名の戒徒を集い会所部内寺院はもとより教区寺院、花園会会員がひとつになり成し遂げ得た授戒会でありました。その時の努力や苦勞のおかげで今日があります。青壮年部活動においても花園会役員交流会から花園会会員交流会へと変わり本年は花園本部長の冠をいただくこととなりました。これは、教区寺院ご老宿、ご尊宿、教区役員、花園会役員、花園会会員皆様のご精進とご法愛の賜と重ねまして心よりお礼申し上げます。

看却下 常に自分自身をふりかえり常に謙虚であることに努め実りある教区活動なるように図ってまいります。

本年もよろしくおねがいします。

「子供の心を育む」
 北海道教区宗議会議員 霧多布 正宗寺住職 松浦明恭

皆様のご健勝をお慶び申し上げます。

さて、花園会は花園法皇様の御心を旨として誕生しました。「報恩謝徳の思い、興隆仏法の志し」がそれです。正しい道を示された先達の御恩に報い、その教えを自身の生き方とする集まりこそが花園会です。

私が所属する第三部では、法皇さまの御心の種まきをしようと、二泊三日の少年少女研修会を始めて今年で二十六年目を迎えます。

小学四年生から中学二年生までの子供たちが、年長の中高生指導員と共に、朝の掃除・本堂での読経・坐禅や写経・食事作法・布教師さんの法話などを通じて仏心を育みます。

また地域での農・漁業体験、自然学習、昼食やバーベキューなど、女性部や青壮年部を含む花園会の皆様方にお世話頂き、子供たちと花園会員との輪が繋がって行きます。

しかし、子供たちの心を育てたいと願い開催する研修会・・・、気付けば私たち大人の心こそ灯されているのかも知れません。

「就任の御挨拶」
 北海道教区花園会 会長 長尾章郎

この度、大道寺責任役員 富田吉孝様の後を受けて北海道教区花園会の会長を務めさせて頂くことになりました。もとより微力な私ではありますが、道内妙心寺派二十四力寺六千四百を超える花園会会員の皆様と共に、本山妙心寺の教え「おかげさま」の心を、檀信徒はもとより多くの方々へ伝えていくよう努力したいと考えております。

この「おかげさま」は、平成二十五年から本山妙心寺花園会の推進テーマとして掲げられており、平成二十六年からは私たちが忘れてはならない四つ恩「四恩」を実践しております。父母の恩、社会の恩、自然の恩、そして三宝の恩と伺っております。

本山妙心寺の前管長 下河野太通老大師がお話しになった「同信同行」全ての人は生まれながらに仏心を持っています。そのことに目覚め実践していくことが禅なのですと言われた言葉が強く心に残っております。

未熟な私ですが、皆様と共に教区花園会の発展に少しでもお役に立てばと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

創建開山

特贈再住妙心無庵快仙和尚大禪師

勸請開山

妙心寺五六三世菟庵祖眠禪師大和尚

本尊

如意輪觀世音菩薩

開創

明治二十八年

副住職

夏秋正文

現住職

大谷秀文(道号、無禪諱名、秀文)
昭和二十八年十二月十六日生

所在地

虻田郡豊浦町字幸町六十二番地

宗派名

臨濟宗 妙心寺派(靈雲派)

寺院名

東方山 北海寺 一等地一級

No.3 北海寺

われら道産子
臨濟宗寺院



豊浦町は人口4,100人ほど、温暖な地域です。農水産物が豊かで内浦湾(噴火湾)に面しているため「豊浦」と名付けられました。農産物は「イチゴ」が盛んで、水産はホタテ養殖発祥の地。元WBC世界フライ級王者の内藤大助選手の生まれた町でもあります。最近「日本一の秘境駅・小幌(こぼろ)」も大人気です。

「花園会員親睦交流会」



六月二十一日、青壮年部主催による花園会員親睦交流会が置戸パークゴルフ場で開催されました。今年で5回目迎え、全道各地より九十九名の参加者がプレーを楽しみました。

また翌日は朝から「椅子坐禅」「生活信条の唱和」「法話」「座談会」と研修を行い、花園会青壮年部活動の充実を誓いました。



「少年少女研修会に参加して」

鷹栖町 田中寺副住 船橋宣裕

三月二十八〜三十日の三日間、本山で「少年少女研修会」が開催され、私と愚息・円明寺新命隆志和尚さん、その子供達三人で参加して参りました。

二部では近年参加が無く、私自身も初の体験です。最初の行事は「縦割りの班」での自己紹介。初めて出会う子供達と馴染めるかを心配していましたが、そこは「子供同士」班長が決まる頃にはすっかり仲良くしておりました。

それから、坐禅体験・腕輪念珠作り・水族館への遠足など盛りだくさんの行事のあと、今年度一番の目玉が「さかなクン」の講演。二時間くらいあっという間に過ぎました。

現代の子供達に教えたい「食事作法」や「感謝の心」など、今後の生活にもとても役立つことと思います。

二泊三日という日程の中で、若い僧侶の皆様が一生懸命に指導されていたのも特筆すべきと思います。

春休みの貴重な体験。この研修で人との交流や感謝の気持ちを持ってくれたのではないかと思います。

「平和と復興の祈り」にて

北海道教区花園会 幹事 額額成喜

先般三月九日、福島県いわき市にて平和と復興の祈りに参加する機会を戴き、北海道教区より九名で出席を致しました。

本年は「東日本大震災」から六年。全国より集まった僧侶・檀信徒により七回忌の法要を執り行いました。また翌日、波立寺・波立海岸にて犠牲になられた御霊に合掌をして参りました。

福島県では「地震・津波・原発事故・風評被害」四重苦を背負って、自分の故郷に戻れず、経済的にも精神的にも苦しんでおられます。

さらに他所に避難している方の子供さんが学校で「虐め」を受けているニュースが続きました。

また一番被災者の気持ちに寄り添う立場の復興大臣の耳を疑う暴言に多くの人が心を痛めております。マスコミは「一部の人」と報じておりますが、日本の社会には弱者を心広く支える気持ちが希薄になっている様な気がするはわたしだけでしょうか。

これからも自然災害は必ず起きます。社会全体で困窮されている方に「心から寄り添う気持ち」を大事にしたいものです。



大会長 船場一讓師



起龍軒老大師による加行礼拝



花園会長も緊張してます(・_・;)

平成二十八年十月十一日、北海道教区花園大会が阿寒湖温泉「鶴雅」で開催されました。ここは全国屈指の温泉街でもあり、国内有数の原生林心寺からは財務部長・瑞岩眞泰師の講話と、元円山動物園園長・長尾章郎氏の講演を頂きました。もちろん研修の坐禅や写経も用意され、参加者九十四名が充実した二日間を過ごしました。



法話の瑞岩眞泰師



平成28年度 臨濟宗妙心寺派 北海道教区花園大会

あかん遊久の里 鶴雅

写真提供：鶴雅リゾート株式会社



是諸法空相……



みんな熱心ですっ!!



長尾さん とってもお話しが上手です♥

地球が誕生して四十六億年。長い時間を掛けて作られた大自然を、僅か五百万年前に誕生した人類はエゴのために破壊を繰り返し、今や地球は瀕死の状態に迄なった。
私たちに出来ることは、大自然に対し畏怖の念を抱き、又その大きな恵みに対して感謝の心を持ち、私たちに出来る処から、次世代に安心出来る環境を取り戻す事です。

臨濟宗妙心寺派 財務部長 瑞岩眞泰師
釧路空港に降り立ち、外に出た途端「寒っ」。十月というのにさすが北海道。
一日前に道内入りし、摩周湖〜屈斜路湖〜当日阿寒湖畔の会場に入る。その距離百五十キロ「北海道の寺院は、この位走るのは普通です」といわれ、改めて北海道教区の広大さを感じた。いったいどのくらいの人が集まるのか……？
しかし札幌からは瑞龍寺起龍軒老大師・苦小牧・旭川方面からも多くの方が来て、私の拙い話に耳を傾けて頂きました。
テーマは「四恩」の中より「大自然の恩」。阿寒国立公園の中ですから、話す環境としては最高の場所。



夜は料理に舌つづみ♪



皆さんこちらへどうぞ〜

「**第一部花園会**」の発足!

北海道教区第一部 宗務支所長
岩見沢市 明心寺住職 徳重寛道

教区第一部では、部内各寺院のご住職様方々の永年の努力にもかかわらず、残念ながら部内の「花園会組織」というものは、規約も含め正式な形では運用されて来ませんでした。このたび漸くその機運が熟し、去る四月十三日、札幌市瑞龍寺様を会場として、部内の各寺院のご住職様方々と花園会の代表者三十名を集めての準備会議を開催し、部内花園会の「規約」を制定し、正式に組織が発足することができました。始めの第一歩ですが、以後、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

〔北海道教区第一部花園会〕役員紹介
花園会会頭：徳重 寛道(明心寺住職)
同事務局：河野 玄秀(護國寺住職)
花園会会長：長尾 章郎(瑞龍寺)
同副会長：前野 正明(瑞芳寺)
女性部会長：島山 芳枝(正法寺)
同副会長：本田真智子(明心寺)
青壮年部会長：阿部 清光(法眼寺)
同副会長：大西 敏幸(明心寺)

「**第二部活動報告**」

北海道教区第二部 宗務支所長
旭川市 大道寺住職 安川天堂

第二部教区の寺院では春には水田、畑作の豊作や皆の健康を祈りながらの山開きの行事があり、夏には各寺院にて、女性部、青壮年部、花園会の主催で子供縁日檀信徒交流会などの行事がいろいろと執り行われています。しかし、長年続けていますと色々と考えなければならぬことが出てきます。

第二部女性部が二十周年になり一泊研修旅行を執り行うことが決まりました。二部教区内では檀信徒の絆を深めるためにこれからもいろいろな催しを考えて行きたいと思えます。



「**道東臨済宗花園会・少年少女研修会**」

北海道教区第三部 宗務支所長
中標津市 大慶寺住職 田中素裕

本年度、我が花園会少年少女研修会〔夏休み@禅寺すくーる〕は、第二十五回を迎えます。ご住職様方はもちろんのこと、各寺院の花園会役員様方と会員皆様ご協力の下に、様々な禅寺の修行、地域のイベント体験、また、その中での生活地域の異なる子供達同士の出会いを通して、子供達なりに、命と心があることを知り、その尊さを学ぶきっかけとなれば、との思いで続けて参りました。参加される子供達一人一人を中心に、和尚様方、当番寺院花園会の皆様方、地域の皆様方が、団結し協力し合う姿に囲まれておりますと、まさに花園の中にいるような幸せな気持ちにも至ります。坐禅や写経食事作法など、大人でも大変な修行体験ですが、理屈も無くその姿勢に向けて頑張る姿は感動的でもあります。

時には過去に参加してくれた子供達も、手伝いや、様子を見に来てくれます。それぞれ立派に成長したその命と心に接する時、皆で蒔いてきた種のなんたるかを感じ、福田衣を身にまとう者として、大変有り難き慶びを感じさせて頂いております。皆様それぞれに苦心し、心を込めて蒔いてこられた種のおかげさまと、常に子供達の目線にてご指導に尽くされ、本年一周忌を迎えられた国泰寺松浦暢道師の本願あつてのことと、深く感謝を申し上げます。皆様には、これからの益々のご協力を賜りたく、切にお願い申し上げます。



「おぼん」 ～おかげさま～

静岡県富士市妙善寺 長島 宗深

教区のみなさま、春期定期布教では大変お世話になりました。北海道の広さと人情の深さにどっぷり浸りながら、日々出会いを楽しませて頂いた十七日間でした。本当にありがとうございます。

* *
忘れがたい光景があります。

お盆前のある日、寺を訪れていたご家族の姿が目にとまりました。若いご夫婦が、二人のお子さんと一緒にお墓掃除をしていたのです。

下の娘さんはまだ小学一年生くらいでしょうが、お父さんと同じように箒を手に、まわりの通路から階段から、ちょっとよここと一生懸命に駆け回っています。

お姉ちゃんはお母さんの手元とあって、見よう見まねで花立の水替えです。見晴らしのいい朝の南

斜面、四人家族が一つになって、穏やかに盆前のお墓掃除をしている光景でした。
「ねえ、お母さん、どうしてここをきれいにするの?」
「ここはね、ご先祖さまのお家だからだよ」
「ごせんぞさま?」
「うん。おじいちゃんとおばあちゃんのことだよ。二人とも、あなたが生まれる前からここに眠っているの。あなたは知らないよね、一度も会ったことがないから。でもこの二人のご先祖さまは、お父さんにとって、とても大事な『お父さんとお母さん』なのよ。だから、お母さんにも、あなたたちにも大事な人たちなの。それで、『ありがとう』ってお掃除するのよ」

「ふーん、そうかあ...」
子どもたちにご先祖さまの姿は見えない。でも、このお母さんの話で、子どもたちはおそらく、「目には見えないけれど何だか大切な人たちがいるらしい」ということを感じ取ったに違いありません。
蔭に隠れて見えないご恩に「おかげさま」と謙虚に感謝してこうとするのが妙心寺派の大切な教えですが、「ご先祖さま」はまさに「蔭」そのものですね。ある先輩和尚さんからは、こんなお話をうかがいました。
そのお寺に、若いカップルがおまわりに

来て、本堂の位牌の前で
ご先祖さまに「いねいに礼拝させていただきます。と、ちよどうぞここに居合わせた大変信心深いおばあさんが、若い二人に尋ねました。
「あんたら、何だえ?」「私たち、近々結婚するので報告に来たのです」
「それで、お前らには先祖さまが見えるかえ?」「.....?」
「見えんら。わしにも先祖さまは見えないが、先祖さまの方からは、お前らのことがよく見えているんだよ」...と。

こちらからは見えないけれど、ご先祖さまはいつも見守ってくださる。うれしい時は共に喜び、悲しい時はかたわらで一緒に悲しみ、悪いことをしている時はハラハラと心配し、がんばっている時はこそり応援してくれている。私たちの幸せを心から祈りながら...
こんな心強い味方が、ご先祖さまなのです。
見えないご先祖さまのご恩を信じられる人は、心豊かな人です。そして、決して自分ひとりのものではないと、己がいのちを大切にできる人です。
お盆はこのご先祖さまを家に迎える日です。縁のあるお墓やお仏壇を心を込めて清め、精一杯心のこもったおもてなしをして、ご先祖さまと心を通わせたいものです。

◆ 花園会決算・ご報告 ◆

平成 28 年度教区花園会会計決算報告

収入の部				
-は予算比減 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日				
項目	予算	決算	増減	備考
1. 繰越金収入	1,004,541	1,004,541	0	
前期繰越金	1,004,541	1,004,541	0	前年度よりの繰越金
2. 会費収入	1,229,400	1,241,400	12,000	
会員割当金	1,229,400	1,241,400	12,000	割当金 200 円 × 6,147 会員
3. 助成金収入	817,200	1,113,480	296,280	
教区推進助成金	130,000	120,000	-10,000	27 年度分教区推進助成金
研修会旅費補助金	300,000	512,080	212,080	前年度の(復興の祈り)×役員研/少年少女研等の参加に比例
参拝推進助成金	10,000	10,000	0	
研修会助成金	0	0	0	
無相教会助成金	77,200	148,400	71,200	発展拡大大会・事務諸費
花園大会本部助成金	300,000	323,000	23,000	大会開催分
4. 繰入金	0	0	0	
繰入金	0	0	0	
5. 雑収入	4,859	92,383	87,524	
雑収入	4,859	92,383	87,524	預金利子・教区花園大会残金 他
合計	3,056,000	3,451,804	607,884	
支出の部				
-は予算比減 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日				
項目	予算	決算	増減	備考
1. 事業費	350,000	650,000	300,000	
教区花園大会	300,000	600,000	300,000	本部助成 30 万円+教区支度金 30 万円
花園会役員交流会	50,000	50,000	0	7 月 新篠津村たつぷの湯
2. 助成費	1,640,000	1,470,000	-170,000	
花園会本部寺院役員研修会	180,000	0	-180,000	6 万円 × 3 名
花園会本部少年少女研修会	240,000	180,000	-60,000	引率 6 万円+子供 3 万円 × 4 人 (第 2 部)
秋期特別布教花園研修会	300,000	300,000	0	10 万円 × 各部へ
教区各部少年少女研修会	50,000	50,000	0	3 部で開催。5 万円
青壮年部本部研修会	0	0	0	
教区無相教会助成金	250,000	250,000	0	教区無相教会本部へ年間活動費
花園会女性部活動助成金	100,000	100,000	0	教区花園会女性部へ年間活動費
平和記念法要助成金	420,000	490,000	70,000	今年度のみ引率 7 万円+役員 7 万円 × 6 人
大衆禅堂助成金	100,000	100,000	0	瑞龍寺さまへ
3. 教化費	300,000	314,009	14,009	
花園会報	300,000	314,009	14,009	
4. 会議費	550,000	686,970	136,970	
花園会役員会	550,000	686,970	136,970	8/31 代表役員会・2/15 合同役員会
5. 事務通信費	10,000	5,882	-4,118	
通信費	5,000	5,000	0	教化主事へ払切
事務費	5,000	882	-4,118	文具・ファイル
6. 雑費	10,000	0	-10,000	
諸雑費	10,000	0	-10,000	
7. 予備費	196,000	0	-196,000	
予備費	196,000	0	-196,000	
8. 積立金	0	0	0	
積立金	0	0	0	
合計	3,056,000	3,126,861	70,861	
【収入】-【支出】=繰越金 324,943 円				
財政調整基金現在高報告 1,600,000 円				

無念無想



たたかかれても
たたかかれても
ちゃんと自分の
声を出す

◆ ごあいさつ ◆

「会長就任の挨拶」
教区花園会女性部 会長 佐藤子工子

皆様におかれましては御健勝にてお過ごしのことと存じます。此の度教区役員改選におきまして再度女性部会長の重責をお受けする事に成りました。微力ながら力を尽くして参りたいと思っておりますので皆様の御協力を心からお願い申し上げます。

二十九年度もスタート致しまして自然の営みは規則正しく昼間の時間が確実に長くなりました。春そして夏へとかけ足で今年も過ぎて行くのですね。

皆様におかれましては花園会の活動を通して何かとお忙しい日々を過ごされている事と思いますが、十月には女性部大会が行われますので一人でも多く参加していただきたく思います。

会員の皆様には活動を通して御理解と御協力をいただいております事に心から感謝申し上げます。

皆様の御健勝御多幸を御祈念申し上げます。就任の挨拶にかえさせていただきます。

「御詠歌を始めてみませんか？」
北海道教区無相教会 詠道部長
岩見沢市 明心寺住職 徳重寛道

御詠歌は、「歌う」のではなく「お唱えする」ものです。お唱えする心は、いつも「祈り」であり、「信心」です。でも、決して「地味」で「暗い」ものではないと申し、(「巧い」(下手)など関係ありません！)

★楽譜が読めなくても全く問題ありません！ご詠歌用の楽譜を使いますが、洋楽譜もあります。簡単なので、誰でもすぐに理解することが出来ます。

★初めから道具を揃える必要はありません！ 続くか分からないのに道具を揃えるのはモッタイナイですよ。お貸しできる道具もありますので、まずはそれを使って体験してみることが出来ます。

★講習会や発表の機会があります！ 本山(京都)から派遣されたご講師による(楽しい)勉強会もありますし、発表する場があれば、上達も早まるもの。もちろん強制ではないので安心ください。

★健康増進と楽しい交流！

みんなで揃って声を出すということは、ストレス発散にも優れて効果的なのです。お寺に足を運ぶキッカケ、気分転換、他寺院の檀家さんとの交流…ご詠歌はよく分からないという方こそ、先ずは各寺院のご住職様にご相談下さい！

平成 29 年度花園会事業計画

平成 29 年度花園会事業計画 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日					
年	月	日	事業	会 所	備 考
平成 29	5	17～18	花園会合同役員会	第一ホテル	花園会役員・女性部・青壮年部
	6	21～22	第 3 回花園会役員交流会	置戸 PGC	青壮年部主催。PG・懇親会・座談会
		26～27	無相教会発展拡充大会	帯広市内	御詠歌講習 桂田真木子師
	7	6～7	全国花園会会長会	妙心寺	教区花園会会長・長尾章郎
		30～8/2	第 2 5 回少年少女研修会	報国寺	講師・羽賀浩規師
	10	2～3	平和と復興の祈り	妙心寺	引率・花園会役員
		10	秋期特別布教・花園研修会	大乘寺	未定
		11	秋期特別布教・花園研修会	瑞龍寺	同上
		12	秋期特別布教・花園研修会	明覚寺	同上
		25～27	無相教会全国奉詠大会	妙心寺	
平成 30	1	17～18	全国花園会会長会	妙心寺	教区花園会会長・長尾章郎
		6	花園会女性部会長会	妙心寺	教区花園女性部会長・佐藤子工子
	2	13	花園会青壮年部会長会	妙心寺	教区花園会青壮年部会長・安田秀敏
3	24～26	花園会合同役員会	第一ホテル	花園会役員・女性部・青壮年部	
			花園会少年少女研修会	妙心寺	3 部より

「教区寺院婦人会会長就任の挨拶」
鶴居村 観音寺寺院 川邊利絵

おかげさまで

この度、北海道教区寺院婦人会会長を務めさせて戴くこととなりました。第三部鶴居村・観音寺寺院、川邊利絵と申します。このような大役を引き受けさせていただくのは初めての体験です。私に務められるのかと不安で一杯ですが、微力ながらも精一杯努力する所存でおりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

テレビや新聞からは悲しいニュースが流れ、心痛む思いがします。皆が「おかげさまのころ」で相手の気持ちを思いやり、こころにゆとりをもって周りの人と接する事が出来たならば、もう少しあたたかい社会になるのではないかな…と考えるながら日々過ごしております。

何分にも未熟者でございますので、皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかと思っておりますが、色々ご指導賜りますようお願い申し上げます。

臨濟宗妙心寺派 北海道教区花園大会

今年の花園大会は北の古都・札幌。新たにリニューアルされた「札幌ビューホテル大通公園」で、大本山妙心寺より花園会本部長・古山敬光師を迎え開催されます。本年度は臨濟禅中興の祖「白隠禅師250年遠諱」を記念して、一龍齋貞弥氏の講談「白隠禅師」も見所の一つです。研修を通じて自己研鑽を深める事により、一層充実した人生を過ごせることでしょう。

日時 平成29年10月30日(月)～31日(火)

会場 札幌ビューホテル 大通公園

総裁代理 瑞龍寺住職 起龍軒老大師

講話 花園会本部長 古川敬光師

講演 「白隠禅師」 講談師 一龍齋貞弥氏



札幌ビューホテル 大通公園

写真提供：札幌ビューホテル 大通公園

後編 記集

待ちに待った初夏の到来。花はほころび、大勢の人が外の仕事を始める。本州から比べれば寒い季節が長いぶん、北海道の人は「暖かい季節」を心待ちにしている。一次産業の多いこの土地の、農作業や漁師の仕事も十月末迄が殆どである。

花園会報を手がけて三回目。どのよなレイアウトにしたら読者が見やすいか？ どうしたら目を通して貰えるかなど…色々と気を遣う作業。難しいところは「敏腕の印刷屋さん」の懐を借りる。「好雪片々別処に落ちず」。この会報はまだ舞っているところなのか：落ちたところなのか：私が落とすのか：誰かが落とすのか…。何処に落ちても「別処に落ちず」と、サラリと行きたいものです。

(発行人) 船場一譲

(編集者) 川邊正道

安川天堂 小畑瑞穂